九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

中華民國兒童文學學會『宮澤賢治及其文學』學術研討會

大場, 健司
九州大学大学院地球社会統合科学府 : 博士後期課程三年 | 国立台湾大学大学院文学院外国語文学研究所 : 博士課程交換留学生

https://doi.org/10.15017/1901734

出版情報：九大日文. 28, pp.119-121, 2016-10-01. 九州大学日本語文学会
バージョン：
権利関係：

◎イベント・レヴュー

中華民國兒童文學學會『宮澤賢治及其文學』學術研討會

大場 健司（おばけんじ）

二〇一六年八月二七日、台湾の洪建全教育文化基金會敏隆講堂において、中華民國兒童文學學會の主催で、『宮澤賢治及其文學』學術研討會が開催された。学会のプロシーディングとして顧錦芬・陳瀅如・賴怡真他『宮澤賢治及其文學學術研討會論文集』（中華民國兒童文學學會、二〇一六年八月）が刊行されていた。学会では、研究者による発表が五本（顧錦芬氏、陳瀅如氏、賴怡真氏、馮世綱氏、徐忠佑氏）、教育関係者による発表が二本（黄郁文氏、傅林統氏）、詩人による発表が一本（銀色快手氏）、中国語で行われた。発表ではパワーポイントが多用され、前述したプロシーディングも配布されたため、海外の研究者にも理解しやすいだろう。また、中華民國兒童文學學會は児童文学一般を研究対象とする学会であり、今回のテーマが宮沢賢治だったため、中国語以外にも日本語や英語で学術交流を行うことができた。

今年二〇一六年は、宮沢賢治（一八九六―一九三三年）の生誕一二〇年にあたり、同じ時期に、日本の宮沢賢治学会イーハトーブセンターにおいても、生誕一二〇年記念事業として第四回国際研究大会（於・なはんプラザ、グランシェール花巻、二〇一六年八月二七―二九日）が開催されていた。この国際研究大会において、大須賀匠氏（東京農業大学大学院）の発表「被災地の今・陸前高田より報告」（コメンテーター・佐藤竜一氏（宮沢賢治学会イーハトーブセンター理事）、栗原敦氏（実践女子大学教授））が行なわれていたように、日本では宮沢賢治の詩「雨ニモマケズ」（生前未発表）は東日本大震災（二〇一一年三月一一日）からの復興との関連で評価されていた。このことは台湾においても同様であり、プロシーディングには次のようにある。

今年（2016）為日本「國民作家」、也是童話名家的宮澤賢治誕辰 120 週年、他是日本家喻戸暁的童話大家、2011 年日本發生 311 福島核災、宮澤賢治的一首〈不要輸給風雨〉適時撫慰成千上萬核災災民破碎的心靈。（邱各客「緣起」五頁）

（今年（二〇一六年）は日本の「国民作家」で童話の名手であった宮沢賢治の生誕一二〇周年にあたる。宮沢賢治は日本における童話の大家で、二〇一一年に日本で発生した三・一一福島原発事故の際には、賢治の詩「雨ニモマケズ」は多くの原発被災者の心を慰めてきた。）

近年、賢治の詩集の翻訳『詩集 宮澤賢治――不要輸給風雨』（顧錦芬訳、商周、二〇一五年一二月）が出版されたこともあり、生誕一二〇年、震災、詩集の出版との関連で、台湾で宮沢賢治に関する学会を開催するのはタイムリーなことであった。

近年、日本の宮沢賢治研究においては、海外における賢治研究に注目が集まっており、例えば、前述した第四回国際研究大会においても、日本だけでなく台湾、中国、韓国、インド、イラン、アメリカ、オーストラリアといった海外の研究者が発表を行っている。同様に、岩手大学宮澤賢治センター編『賢治学』第三輯（東海大学出版部、二〇一六年六月）において特集「越境する賢治」が組まれ、黄毓倫「台湾における賢治文学の受容と今後の可能性について」など、海外での研究や受容に関する論文が掲載されていることから、台湾で宮沢賢治に関する学会を開催することは、研究史的に意義深いことだろう。

次に、今回行われた研究発表をいくつか紹介したい。最初の発表は、顧錦芬氏（淡江大學副教授）による「宮澤賢治文學之旅」（宮沢賢治文学の旅）であった。この発表では、最初に宮沢賢治に関する基本的な事項が紹介され、これまでの台湾の賢治研究では童話の研究が中心的であったことが説明された。今回の学会も中華民國兒童文學學會が主催していたこともあり、宮沢賢治が児童文学のカテゴリーで受容されていたことが窺える。また、賢治の詩に哲学や科学の専門用語や方言が含まれており、翻訳し難いものと理解されてきたため、詩の研究はあまりなされず、もっぱら童話が研究されてきたという。しかしながら、前述したように二〇一五年に顧氏による翻訳で『詩集 宮澤賢治――不要輸給風雨』が発表されたことで、詩の研究も行われるようになる。

賴怡真氏（九州大学特別研究員）は、発表「宮澤賢治〈種山之原〉與夏目漱石《夢十夜》――「楢木」、「篝火」與民俗學的受容」（宮沢賢治「種山ヶ原」と夏目漱石『夢十夜』――「楢の木」、「篝火」、民俗学の受容）を行った。この発表では、宮沢賢治の「種山ヶ原」（生前未発表）と夏目漱石（一八六七―一九一六年）の『夢十夜』（『朝日新聞』一九〇八年七月二五日―八月五日）を論じることで、両作家の民俗学受容が同時代言説を調査することで比較されていた。賢治と漱石はともにキャノンの作家だが、両者を比較する先行研究があまりないことからも、この発表の重要性が窺われる。「楢の木」や「篝火」といったキー・ワードから本文を丁寧に読み、同時代言説を細かく調査している点で、他の研究者や大学院生たちにとって良い刺激になったのではないだろうか。

他に、陳瀅如氏（中華民國兒童文學學會理事）の発表「從《要求特別多的餐廳》之繪本化看見「異本作業」」（『注文の多い料理店』の絵本に見る「異本作業」）では、日本と台湾で出版された『注文の多い料理店』（杜陵出版部、東京光原社、一九二四年一二月）の絵本が比較されていた。プロシーディングに収録された論文では、論文の最後に、日本と台湾で出版された『注文の多い料理店』の一覧表が収録されているため、資料的な価値がある。また、黄郁文氏（元小学校校長）は、植民地時代に小学校で宮沢賢治について教えられた経験を語っており、当時の教育を考える際に示唆に富んでいた。

最後に、今回の発表タイトルと発表者名を列挙している。

【『宮澤賢治及其文學』學術研討會】

○主催　中華民國兒童文學學會
○共催　國立台湾文學館、台北市文化局

【開幕式】
○邱各容（中華民國兒童文學學會理事長）「理事長致詞」（理事長挨拶）
○蕭淑貞（台湾文学館）、李麗珠（台北市文化局副局長）「来賓致詞」（来賓挨拶）
○新生國小弦樂校友隊「大提琴四重奏」（チェロ四重奏）

【基調講演（一）】
①顧錦芬（淡交大學）「宮澤賢治文學之旅」（宮沢賢治文学の旅）

【論文発表（一）】（司会・総合問答　洪文瓊（國立台南大學））
②黄郁文（元小学校校長）「閒談童年時接受的詩歌教育及宮澤賢治的傳記」（幼少期に受けた詩歌教育と宮沢賢治の伝記）
③陳瀅如（中華民國兒童文學學會理事）「從《要求特別多的餐廳》之繪本化看見「異本作業」」（『注文の多い料理店』の絵本に見る「異本作業」）
④銀色快手（詩人）「幸福必須植根於生活的土壤裡——淺論童話詩人宮澤賢治」（生活の土壌に根差した幸せとは——童話詩人、宮沢賢治を論じる）

【基調講演（二）】
⑤傅林統（元小学校校長）「宮澤賢治迷悟之間的思想軌跡探尋」（宮沢賢治の「迷い」の思想の軌跡の探求について）

【論文発表（二）】（司会・総合問答　游珮芸（國立台東大學））
⑥賴怡真（九州大学特別研究者）「宮澤賢治〈種山之原〉與夏目漱石《夢十夜》——「楢木」、「篝火」與民俗學的受容」（宮沢賢治「種山ヶ原」と夏目漱石『夢十夜』——「楢の木」、「篝火」、民俗学の受容）
⑦馮世綱（高雄師範大學博士二年）「宮澤賢治思想對於日本文學的影響——以《吞食上弦月的獅子》為探討對象」（日本文学における宮沢賢治思想の受容について——『上弦の月を喰べる獅子』を例にして）
⑧徐忠佑（静宜大學修士三年）「《銀河鐵道之夜》——宮澤賢治所追求的「真正的幸福」」（『銀河鉄道の夜』——宮沢賢治が求めた「ほんとうの幸」とは）

【総合座談会】
○周姚萍（作家）、劉宗銘（漫画家）、銀色快手（詩人）、陳正治（画家）

【閉幕式】
○邱各容（中華民國兒童文學學會理事長）

（九州大学大学院地球社会統合科学府博士後期課程三年、国立台湾大学大学院文学院外国語文学研究所博士課程交換留学生）